

## 宣言について

### WHY?

#### なぜ必要なのか

ピープルファースト宣言は2021年7月、ベルリンでIAS会議がバーチャル開催された期間中に発表されました。HIV とセクシュアルヘルスに関し、人を第一に考える言語の普及を目指しています。

言語は重要です。HIV 陽性者、HIV 感染のリスクに曝されている人はスティグマと差別を経験しています。そして誤った言葉が使われることで、そのスティグマと差別が永続することになります。

HIV 分野には、非難によってスティグマを生み出す用語が溢れています。

- HIV-infected person (HIV 感染者)
- Patients failing treatment (治療に失敗した患者)
- Became infected (感染してしまった)
- Serodiscordant (感染状態の不一致)

世界保健機関(WHO)はこう指摘しています。  
「ポジティブで包摂的(インクルーシブ)な言語は、進歩と協  
力に向けた新たな機会を生み出すものです。当面の問題の  
終結にのみ焦点を当てているわけではありません」

私たちが使う言葉は目指すべきゴールに沿っていなけれ  
ばなりません。基本的人権の一つとして、HIV や性感染症  
(STI)のリスクを抱えて生きるすべての人が、達成可能な最  
高水準の健康を享受できるようにすべきです。

## どうすればいいのか

政策立案者や研究者、会議開催者、雑誌、医療提供者には、  
用語ガイドラインおよび成功事例を示し、それに準拠するこ  
とを求めています。

1. ガイダンスを作成し、継続的に更新する。
2. HIV と性感染症に関連する資料でピープルファースト  
の用語使用を呼びかける。
3. 科学論文の抄録や論文本体の査読者に対し、適切な用  
語を推奨するよう依頼する。
4. HIV/STI の研究およびケアに携わる個人・組織に対し  
宣言の承認を求める。

目標は医療、科学、その他のあらゆる分野で、適切な表現  
の普及を支援することにあります。



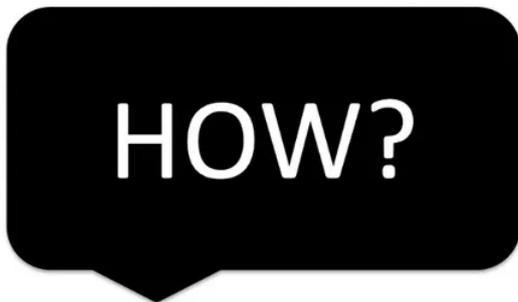
## 力になります

最終的には、すべてのコミュニティが望ましい言語を使う  
ようになることを目指しています。でも、その前に自分たち  
が自らの領域で適切な用語を一貫して使えるようにする必  
要があります。自分たちのフィールドから始め、そして世界  
へ！です。

ピープルファースト宣言に関与する方法を学び、適切な  
言葉を適切なかたちで使えるようにするためご協力くださ  
い。

ガイダンスの翻訳が可能ならご連絡ください。

ピープルファーストではない言葉を見たり聞いたりした場  
合は、ピープルファーストの用語があることを(やさしく丁寧  
に)教えてあげ、使用を奨励してください。間違えることは  
誰にでもあります。変化が定着するには時間がかかるもの  
です。



また、母国語ではない言語でプレゼンテーションや出版を行う際の課題もあります。この点にも目配りが必要です。

## どんな言葉なのでしょう

What language is  
the *right* language?

### パーソンファーストの言葉

パーソンファーストの言葉は、その人の状態よりも人そのものを優先する言葉です。人は人であり、状態によって定義されるものではないとの認識に基づくものです。HIV ケアに関して言えば、「HIV 感染者」といった用語は避け、「HIV とともに生きる人」を使うべきです。

他にもパーソンファーストの言葉を使うことがあります。例えば、

- ・diabetic person(糖尿病の人)ではなく、「person with diabetes(糖尿病を抱える人)」
- ・obese person(肥満者)ではなく「person with obesity(肥満状態の人)」

アイデンティティが優先する場合があります(下記参照)。

### アイデンティティファーストの言葉

パーソンズファーストの言葉は人をその状態から切り離すことになるため、そうすることが不可能または不適切と感じるコミュニティもあります。

たとえば、聴覚障害者のコミュニティでは、多くの人が聴覚障害を自らのアイデンティティの一部と考えています。自閉症者の多くも同様です。アイデンティティファーストの言葉には「人」が含まれることが多く、依然として人を中心に行っているとと言えます。

### どちらが正しいのでしょうか

決められたルールはありません。何を「正しい」とみなすのかは、それぞれの状態や時間の経過によって異なり、人によっても様々です。

大切なのは、それぞれの状態や特徴を持つコミュニティがどう説明されることを好むかを当事者に尋ね、定期的に再検討していくことです。

常に正しいというわけではありません。ただし、推奨される用語に関し開かれた議論を重ねることによって、理解が増し、変化が促されることになります。